

各委員会・専門部会活動報告 ～青年部会～

第41回 横浜開港祭 2022 支援事業参加

日時 令和4年6月2日(木) 午前8時～午前0時30分

場所 横浜臨港パーク全域(みなとみらい21)

参加者 59名(当協会メンバー及び参加企業従業員)

□ 第41回横浜開港祭が、開港記念日の6月2日から、臨港パークと高島中央公園を中心に開催された。新型コロナウイルスの終息が見込めない等の理由もあって、3年ぶりの通常開催となった。主催の一般社団法人横浜青年会議所などによる横浜開港祭協議会、私たち神奈川県産業資源循環協会も参画し、「開催を祝い、港に感謝しよう～優しさつくる新たな挑戦～」をテーマに、開港祭が盛大となるよう協会のメンバーや参加企業の従業員が大いに貢献したところで

す。
ステージ上でのダンスや音楽ライブ、花火などの各種イベント、キッチンカーもあり、多くの家族連れやカップルなどが来場され、盛大な行事となりました。さらには、「ナイトドローンショー」として、500機のドローンが夜空を彩る景観は圧巻でした。

□ 青年部会では、「優しさつくる新たな挑戦」として、環境に配慮し、2050年のゼロカーボンシティー実現に努めるべく、「身近なところから、できることを」といった取組の一環として、来場者の方に廃棄物を、分別、処理していただけるよう、「エコステーション」を6箇所、16時から11箇所に設置し、廃棄物の分別、処理の大切さを知っていただくとともに、協会が取り組んでいる環境問題等への取組や資源の再利用を推進する取組など、広報活動にも積極的に取り組むことにより、協会の認知度を高めることにも努めました。

□ このような大きなイベントを開催する裏側にはそれなりに困難なことも待ち受けています。その1つが、ゴミ問題です。例年開港祭が終わり来場者のみなさんが帰られたあと、深夜まで、会場に落ちているゴミと向き合っています。拾い続けたごみをしっかり分別して集積、そして処分へと、適正に処理することで、無事に横浜開港祭を成功させる事が出来ます。

ゴミの処理費用も年々高騰しています。

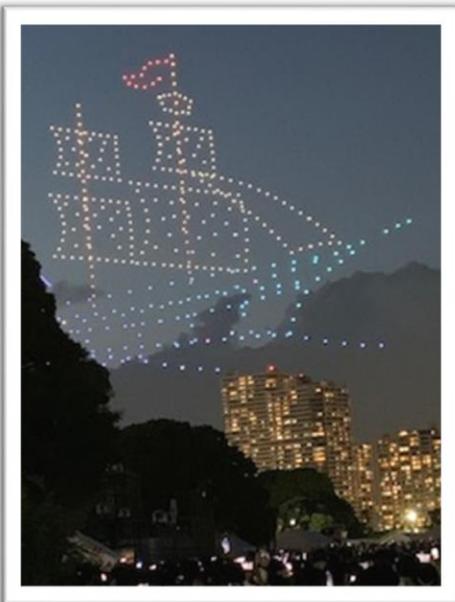
ゴミ問題が多くの方の市民の方に理解され、分別の重要性にも理解が進めば処分に要する費用の低減にもなることを身近に感じていただく機会として、他方、私たちも社会貢献をとおして広報することの重要性を再確認できた、いい機会であったと思っています。

□ 分別作業後の会場では、青年部会のメンバーが総出で、山と積まれた廃棄物の回収と分別が夜を徹して続けられました。協会の小さな取組でもその積み重ねが大切であると思いつつ、活動を終わりにしたところです。

なお、回収された廃棄物の種類とその回収量は、次のとおりでした。

【廃棄物回収量】

種類	紙ごみ	事業系一廃	ビン・カン・PET	廃プラ	汚泥	PETキャップ
数量	42kg	1,600kg	544kg	22m3	270kg	25kg



【参加企業一覧表】

株式会社ダスポ・笹田実業株式会社・株式会社タケエイ・横浜環境保全株式会社・株式会社門倉商店・株式会社中商・株式会社三興商事・藤木商事株式会社・株式会社環境管理センター・桃神興産有限会社・ソリタ運輸株式会社・有限会社宇佐美・株式会社グリーン・株式会社ニチュ・テクノ・株式会社東産業・横浜エコロジー株式会社・株式会社マルカ・株式会社三興ソウビ・株式会社ケイ環境企画・東日本コベルコ建機株式会社・株式会社INE・エクオ株式会社・大和ハウス工業株式会社・大谷学園横浜隼人高等学校 他ボランティアスタッフ

以上 会員番号順